

ヒペリカムの長期出荷のための新しい作型

松野孝敏・國武利浩
(福岡県農業総合試験場)

Takatoshi Matsuno and Toshihiro Kunitake :
New Cultural System of *Hypericum androsaemum* for Long-term Production

ヒペリカムの長期出荷技術を確立するため、加温促成栽培における夜間最低気温と電照の有無、雨よけ二度切り栽培における遮光が生育に及ぼす影響について検討した。

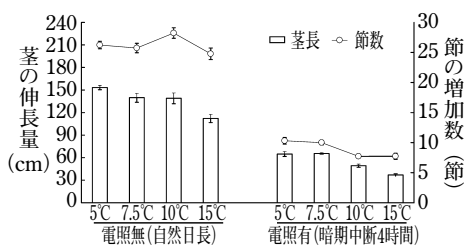
試験Ⅰ：加温促成栽培における夜間最低気温と電照の有無が生育・開花に及ぼす影響

2002年9月20日に挿し木したヒペリカム‘エクセレントフレアー’を、23l容量のプランターに10株定植し(10月7日)、1~2本/株に整枝した後、11月1日より供試した。試験区の構成は、夜間最低気温5、7.5、10、および15℃と、電照(暗期中断4時間:22:00~2:00)の有、無とした。

その結果、ヒペリカムの平均開花日や収穫日は、電照有・夜間最低15℃区で最も早くなった。電照条件下では、最低気温が高いほど早期に開花した(第1表)。電照有区の開花までの増加茎長や節数は、夜間最低気温が高い区でより小さく、切り枝品質が低下した(第1図)。処理開始(11月1日)から収穫までの所要日数は、電照有区では15℃区で84日と短く、10℃で125日、7.5℃で146日、5℃で177日となった。電照無(自然日長)区では、15℃で171日となった他は、200日以上の日数が必要であった(第2図)。

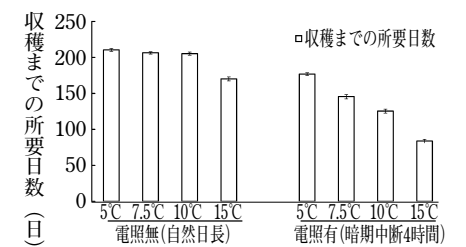
以上の結果から、加温促成栽培におけるヒペリカムの開花のためには、電照が有効であり、夜温管理は、収穫時期や切り枝品質等を考慮した場合、7.5℃が実用的と考えられた。

試験Ⅱ：雨よけ二度切り栽培における遮光が生育に及ぼす影響



第1図 夜温および電照が茎長と節数¹⁾に及ぼす影響

注) 1) 収穫時の茎長と節数から処理開始日の11月1日の茎長と節数を引いた値を示す。



第2図 夜温および電照が収穫までの日数に及ぼす影響

注) 処理開始日の11月1日から収穫日までの所要日数を示す。

2001年3月1日雨よけハウスに、株間80cm、1条植えで定植し、1番花収穫後の‘エクセレントフレアー’を供試した。試験区の構成は、2003年6月11日から黒寒冷紗#610(遮光率58%)を用い、0、4(7月9日まで)、8(8月6日まで)および14週間(9月17日まで)の遮光処理を9月出し(切戻し無)、11月出し(8月1日切戻し)で行った。電照は8月1日から調査終了まで暗期中断4時間(22:00~2:00)で行った。切戻しは新梢を基部で切除し、新梢1本当たり2本、株当たり約15本に整枝した(8月22日)。

その結果、9月出しでは9月下旬の収穫始となり、11月出しの収穫始は11月中旬となった。遮光期間の影響は、作型にかかわらず14週遮光区の切枝重と茎径が小さくなり、9月出しでは着果数が減少した(第2表)。

以上の結果から、ヒペリカムの雨よけ二度切り栽培においては、8月上旬から電照することによって9月下旬に2番花を収穫することができる。1番花収穫後、8月上旬に切戻し、電照することによって11月中旬に収穫することができることが明らかになった。寒冷紗による遮光処理は、品質向上および生産安定技術として有効であると考えられるがさらに検討が必要である。

以上の試験から、冬季は電照と夜間最低気温7.5℃の加温を組み合わせることによって切り花生産が可能であり、雨よけ栽培では、1番花収穫後切り下株から新梢をそのまま仕立てることで9月出荷が、また、8月上旬に新梢を切戻し、8月1日から電照することで11月に収穫することができることが明らかになった。

第1表 促成栽培における電照と夜間最低気温が生育と切枝品質に及ぼす影響

電照の有無	夜間最低気温	11月1日 茎長	11月1日 節数	平均開花日 ¹⁾	平均収穫日 ²⁾	切枝長	切枝重	節数	着果数 ³⁾	茎径					
		cm	節	月/日	月/日	cm	g	節数	個	mm					
無	5℃	7.2	5.8	5/18	5/30	164.5	a ⁴⁾	80.3	abc	32.1	a	12.3	c	7.0	ab
	7.5℃	7.5	5.9	5/12	5/26	151.2	a	71.5	bc	31.6	a	15.0	c	6.8	ab
	10℃	6.7	5.6	5/9	5/25	152.0	a	104.7	abc	33.8	a	13.8	c	7.9	a
	15℃	8.0	6.2	3/26	4/20	128.8	b	86.0	abc	30.9	a	17.2	bc	6.8	ab
有	5℃	8.6	6.3	3/6	4/26	92.4	c	48.2	cd	16.6	bc	36.7	a	6.4	bc
	7.5℃	7.7	5.5	2/14	3/26	83.2	cd	39.5	de	15.5	bc	23.6	bc	5.5	cd
	10℃	7.6	6.1	1/30	3/6	65.1	de	27.0	de	13.8	c	17.4	bc	4.3	de
	15℃	8.5	6.1	12/28	1/23	50.5	e	15.4	e	13.8	c	14.6	c	3.3	e

注) 1) 開花日は頂花の開花時期。
2) 収穫日は新たな開花がなく、果実が着色した日。
3) 着果数は上位2節の花房を残した1本仕立てとした場合の測定値。
4) 同一列内の異なるアルファベットはTukeyの多重検定5%水準で有意差あり。

第2表 雨よけ二度切り栽培における遮光が生育に及ぼす影響

作型 ¹⁾	遮光期間	切戻し時 側枝長	切戻し時 節数	開花始	収穫始	茎長	節数	切枝重	分枝数	着果数	茎径	曲り程度							
	週間	cm	節	月/日	月/日	cm	節数	g	本	個	mm	mm							
9月出し	0	-	-	8/25	9/19	74.0	ab	19.7	b ³⁾	49.4	a	4.4	b	19.9	a	6.5	a	10.0	ab
	4	-	-	8/23	9/21	66.0	c	19.3	b	44.8	a	4.9	b	22.7	a	5.9	ab	7.5	b
	8	-	-	9/2	9/22	80.0	a	21.7	a	47.8	a	7.4	a	18.1	a	6.6	a	12.8	a
	14	-	-	9/4	9/29	68.3	bc	21.9	a	28.4	b	2.3	c	8.1	b	5.3	b	8.1	b
11月出し	0	50.3	12.2	10/16	11/13	57.5	a	16.3	a	26.2	ab	0.7	a	9.4	a	5.2	a	5.2	a
	4	41.5	12.2	10/14	11/16	63.2	a	16.6	a	30.7	a	1.9	a	7.8	a	5.1	a	5.8	a
	8	48.2	11.7	10/22	11/13	64.2	a	17.4	a	27.9	ab	1.4	a	8.9	a	5.3	a	6.9	a
	14	34.2	10.9	11/1	11/24	56.2	a	16.2	a	18.3	b	0.8	a	7.0	a	4.3	b	6.8	a

注) 1) 9月出しの調査は10月7日、11月出しの調査は12月8日。
2) 曲り程度は茎の湾曲部の高さを測定。
3) 同一列内の異なるアルファベットは、作型ごとにTukeyの多重検定5%水準で有意差あり。